

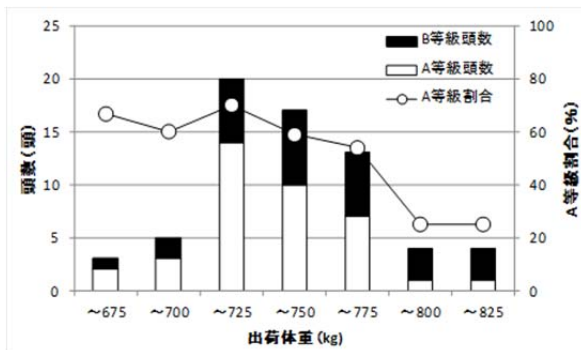


良好な歩留等級を確保するための日本短角種の肥育技術

【目的と成果概要】

日本短角種は、近年、歩留等級の低下が顕著になっています。そこで、飼養管理の面から改善を図るため、去勢牛における適正な発育と飼料給与の指標を作成しました。

- (1) 出荷体重が大きくなるほど、歩留A等級割合が低下します(図)。枝肉重量が平均以上(450kg)の枝肉を対象とし、肥育成績を比較したところ、肥育後期(概ね生後17~23ヶ月齢)における平均日増体量(DG)及び出荷体重が、歩留A等級群で0.8kg/日、770kg程度と、歩留B等級群の0.9kg/日、790kg程度より低くなることわかりました(表1)。
- (2) 歩留A等級群の肥育手法から作成した、発育と飼料給与の指標を表2に示します。



参考

※歩留基準値(肉専用種の場合)

=67.37

+ (0.130 × ロース芯面積)

+ (0.667 × バラ厚)

- (0.025 × 左半丸枝肉重量)

- (0.896 × 皮下脂肪厚) + 2.049

72 以上 で歩留A等級

69 以上、72 未満で歩留B等級

69 未満 で歩留C等級

表1 枝肉重量450kg以上の枝肉の歩留等級別の比較(発育)

歩留等級	n	開始		中間 ^{※1}	終了		DG ^{※2}		
		月齢	体重	体重	月齢	体重	前期	後期	全期間
A	21	8.3	273	604	23.4	771	1.28	0.83	1.09
		±0.6	±32	±51	±1.0	±27	±0.12	±0.18	±0.09
B	18	8.4	281	603	23.5	791	1.26	0.93	1.11
		±0.5	±38	±40	±1.1	±28	±0.11	±0.09	±0.07
統計学的な差		無	無	無	無	有	無	有	無

※1 中間体重: 約17ヶ月齢時の体重。

※2 DG: 平均日増体量で、発育の指標値。ある期間における1日当たりの体重増加量。

表2 飼料給与例

		肥育前期(~17ヶ月)	肥育後期	成分(TDN、CPは乾物中)
発育の目安		280→600kg DG 1.2-1.3kg/日	600→770kg DG 0.8kg/日	
日平均摂取量	TDN	6.30	7.23	
	CP	1.13	1.28	
	T/C	5.6	5.6	
メニュー	配合飼料	体重比1.6%	9kg	DM 86.9%、TDN80.9%、CP15.2%
	牧草	2.5kg	-	DM 85.0%、TDN58.8%、CP10.1%
	稲わら	-	2kg	DM 84.8%、TDN48.3%、CP5.4%

TDN: 飼料の中で、牛が消化できる養分の総量。

CP: 飼料中に含まれる粗蛋白質含量。

T/C: TDNとCPの比率。

飼料の成分(水分やTDN、CP)により、給与量の調整が必要となります。

担当研究室 畜産研究所家畜育種研究室

〒020-0605 滝沢市砂込737-1 TEL 019-688-4328 FAX 019-688-4327